

日本型のシーニックバイウエイ(仮称)の進め方

～ “新しい道空間づくり”の進め方 ～

平成17年12月7日

1. 誰が？

～活動主体～

- 地域のやる気のある人、組織が自主的に参加し、連携を図り活動を実施する
- 地域のリーダーが中心となり、“みちづくりパートナーシップ(仮称)”を形成のうえ、活動を実施する

地域の活動主体

=みちづくりパートナーシップ※を形成



※活動内容に応じて構成され、必ずしも全ての活動主体により構成される必要はない。

みちづくりパートナーシップの役割

- パートナーシップの設立・運営
- 地域の調査
- 活動計画の策定
- 活動の実施(研修活動、ソフト事業、ハード整備)
- 他のパートナーシップ、行政組織、地域住民等との交流(情報収集・交換)
- 資金調達
- 沿道用地等の提供 等

2. どこで？

～活動エリア～

■全国のどんなところでも

■道や沿道、脇道を含む幅広いエリアで

■道を中心とした幅広い範囲で

- 道路自体も
- 沿道も
- 私有地も



■道(ルート)の機能にかかわらず

- 長い路線も、短い路線も
- 幹線道路でも、遊歩道でも
- 既に美しい道でも、これから美しくしたい道でも
- 古い道でも、新しい道でも
- 人も、車も、自転車も

■どんな場所でも

- 都市部でも、地方部でも

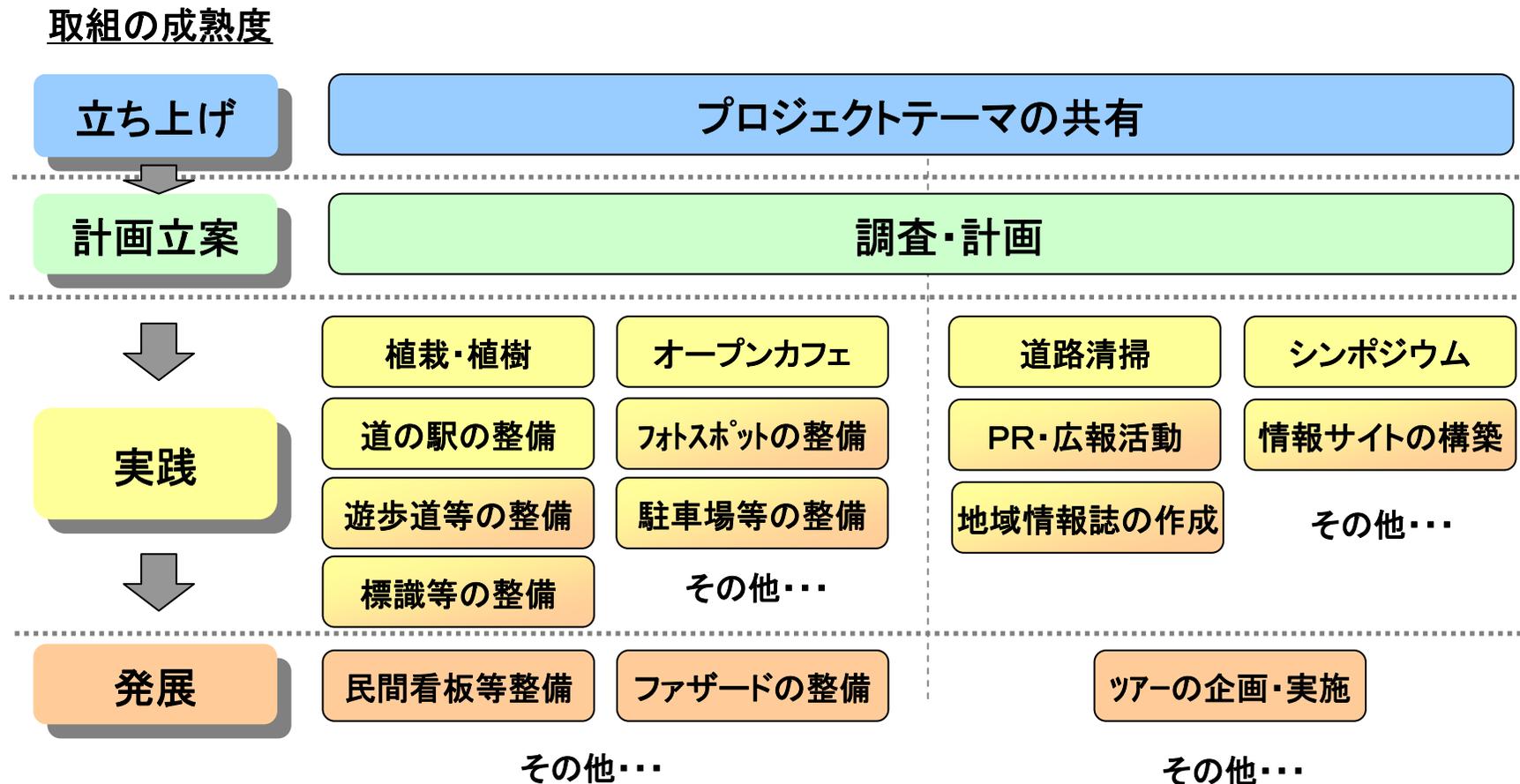


3. 何を？

～事業内容～

■ 取組の成熟度、地域特性を踏まえたプロジェクトテーマ等に応じ、様々な事業を実施する。

想定される活動の流れと事業内容(例)



4-1. どうやって?

～支援方法～

■ 国や戦略会議が、活動主体の成熟度(立ち上げ期、計画立案期、実践期、発展期)に応じて、必要なサポートを行い、成長を促進する

■ 戦略会議からのサポート(例)

協力関係構築 (財界・団体等)

ブランド化 (広報活動等)

研修活動

品質管理 (事業のチェック)

情報提供

ビジネスモデル構築支援

サポート

みちづくりパートナーシップ

町内会・自治会

地元企業

地域住民

自治体

NPO

道路管理者

立ち上げ

計画立案

実践

発展

成熟度に応じて様々な事業を実施

テーマの共有等

調査・計画等

ハード: 植栽、駐車場・標識整備等

ソフト: 広報PR、維持管理活動等

サポート

制度等の整備・構築・情報提供

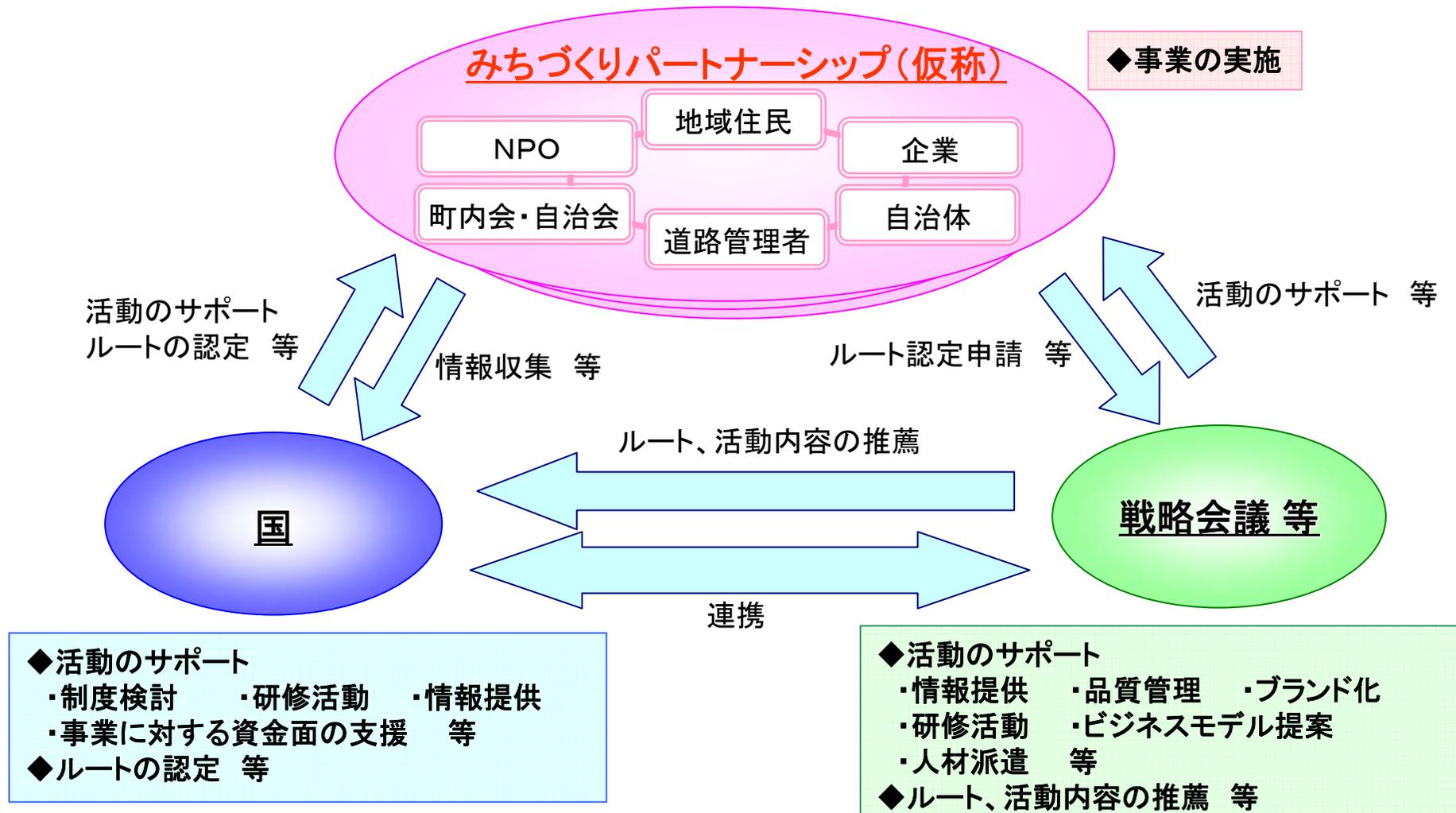
研修活動 (人材派遣、セミナー、ワークショップ等)

■ 国からのサポート(例)

4-2. どうやって？

～活動主体と行政・戦略会議の関係～

■地域のみちづくりパートナーシップ(仮称)が行う事業を、国、戦略会議がサポートする



5. 戦略会議の進め方

